

平成 28 年度実施状況に関する外部有識者意見について

名古屋市営交通事業経営計画（2015-2018）の平成 28 年度実施状況について、計画策定時にご意見をいただいた外部有識者に説明するとともに、ご意見をお聴きしました。主なご意見は以下のとおりです。

【計画全般】

- ・ 事業の進捗や乗車人員の推移及び経営の状況とも、順調である。
- ・ 乗車人員が増加傾向にあるが、その要因の分析をしっかりとっておくことが重要である。
- ・ 市バスは、資金不足の解消を達成できたこと、地下鉄も、乗車人員の増加、計画を上回る収支状況など、順調といえる。しかし、市バスは、営業収支が赤字であること、地下鉄は、今後も可動式ホーム柵の整備や耐震補強など投資の必要があることから、引き続き経営基盤強化に向けた取り組みを続ける必要がある。

【安全・安心】

- ・ バス運行支援システムの導入は、より安全に運行できるよう、すみやかに全車両に導入を完了しており、よい取り組みである。
- ・ 本年も、各地で局地的な豪雨によって浸水被害が発生している。浸水対策は引き続き取り組んでほしい。
- ・ 女性専用車両の設定が徐々に拡大されてきていることはよい取り組みである。しかしながら今後も、犯罪防止の観点から路線や曜日・時間帯別の状況を把握し、更なる拡大の検討も必要である。

【利用促進・情報発信】

- ・ 地域巡回バスの多くは域内を網羅する路線となっているため、どのような用事のための移動に使えるかをイメージしづらい。沿線にどういった施設があるのかをPRするため、わかりやすい路線図を用意するなどし、その路線を使って何ができるかを理解していただくように工夫することが必要である。
- ・ 市バス・地下鉄に乗っていただくためには、その目的がないと難しい。市内の観光資源（武将ゆかりの地など）を目的地とすることによって、市バス・地下鉄に乗っていただけるように取り組みを行うのも方策のひとつである。

- ・ 最近、若い人の外出・移動回数が減少しており、外出を喚起する取り組みが重要となってきた。市バス・地下鉄に乗って気軽に外出でき、行った先でいろいろな機会を得ることができることをPRする方法もある。
- ・ 外国人観光客が増えているが、口コミサイトなどを参考に観光するケースも多くあるようである。名古屋市交通局としても、外国人観光客のお客さまに多く訪れてもらえるよう情報発信に取り組むとよい。

【その他】

- ・ 今後は、東京オリンピック・パラリンピックの開催も控えているが、その後の反動がどうなるかも考慮していく必要がある。
- ・ リニア開業にあたり、名古屋駅でターミナルスクエア等の整備方針案が示されているが、地下鉄においても混雑の緩和や乗継の利便性の確保などの課題に対応していく必要がある。
- ・ この地域は、リニア開業も控えており、それまでは乗車人員も堅調に推移していくと考えられる。このような時期に市バス・地下鉄の利用者をより増やしていくために何をやっていくのかが重要となる。

(参考) 外部有識者一覧 (敬称略、平成 29 年 8 月現在)

氏名	役職等
青木 真美	同志社大学 商学部 商学科 教授
加藤 博和	名古屋大学大学院 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター 教授
加藤 義人	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 執行役員 主席研究員
神谷 紀子	フィールド・ネクサスGROUP CEO税理士 名古屋大学法科大学院 非常勤講師
二村 真理子	東京女子大学 現代教養学部 国際社会学科経済学専攻 教授